

北海道総合地質学研究センター第20回公開講座（2026年6月6日 土曜日）

北海道教育委員会2026年度前期道民カレッジ講座指定

後援 札幌市教育委員会

（分野：歴史，教養）



失われた川を尋ねて —水の都物語—

本講座では札幌の河川改変の歴史を紹介します。

アイヌの人たちはコトニ川の支流・チェプンペツ（魚がそこに入る 川）の畔にコタンを構えて暮らしており，一帯はコツネイ（凹地 になっている所）と呼ばれていた。開拓使時代にはサップロ（乾く大きい川）の自然改変が始まり，一つは豊平川の変貌で，もう一つは山鼻や札幌本府を流れていたコトニ川源流の消失であった。

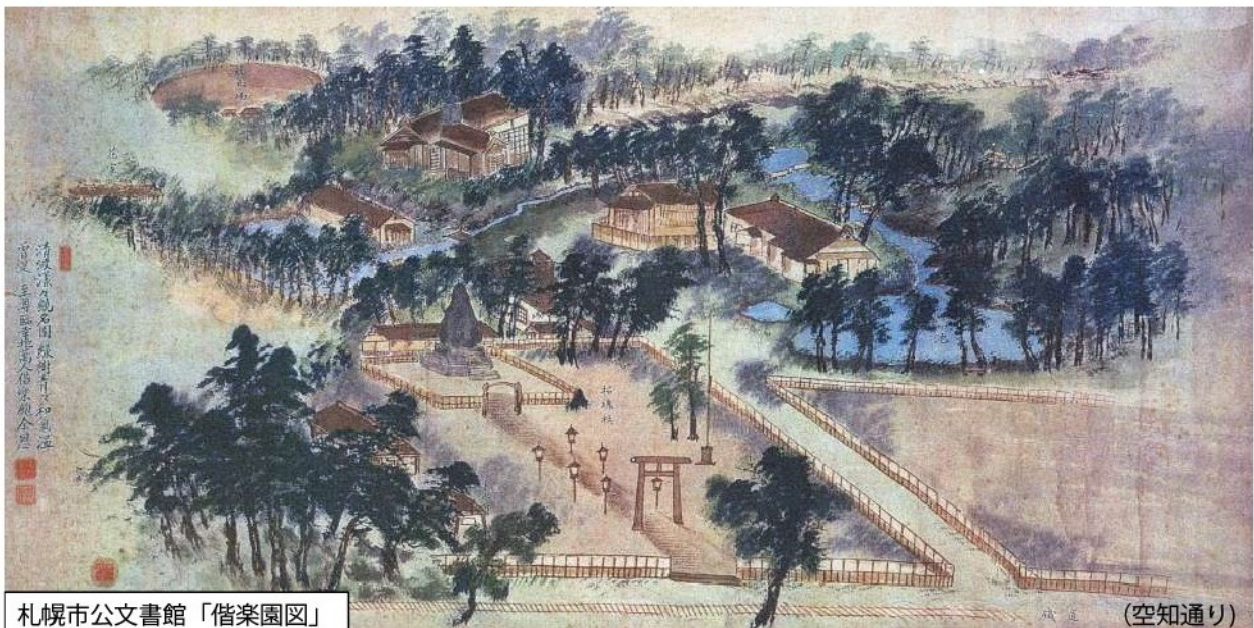
開拓使はヌプサムメモ（野の傍らの泉池）を含む偕楽園を公園・勸業施設として1871（明治4）年に開き，10年後に行幸された明治天皇は清華亭からの眺望を絶賛した。

演者の畏友である佐藤史夫はこの風景を「水の都」と評した。

（サクシコトニは）偕楽園の池水より
流出し，軟草兩岸を埋め，老樹古
桂参差として澗水にかざす。

1882(明治15)年の偕楽園

アイヌの住居(展示)



札幌市公文書館「偕楽園図」

講師/ 宮坂 省吾(北海道総合地質学研究センター理事、シニア研究員)
長野県出身、北海道大学理学部卒業、理学博士、元日本地質学会北海道支部長

日時：2026年6月6日（土）13：30～15：30（開場予定 13：00）

会場：かでの2.7 730研修室（北海道立道民活動センター、札幌市中央区北2条西7丁目）

参加費：1,000円（高校・大学生，会員は半額） 参加定員：50名（先着受付）

申込期限：2026年6月4日（参加定員に余裕があれば前日まで受付ます）

参加申込・問合せ先：E-mail office@hrcg.jp Tel. 080-5830-2016

主催：特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センター（<https://www.hrcg.jp/>）

講義の概要

1. さっぽろ偕楽園
2. 明治初期の札幌
3. サップロのアイヌ語地名
4. 偕楽園とメムの変遷
5. 偕楽園の変遷
6. 民間払い下げ後の繁栄と混乱
7. 戦中～戦後の荒廃から有形文化財指定・清華亭復元
8. かいらくえん公園と清華亭の今



偕楽園内の清華亭（西南面）（明治13.6）
：北大附属図書館



2015年7月1日撮影

清華亭の東面にハルニレが残され、
南面の巨木や上伸枝のみになった老齢木は今は無く、
後に植樹されたヨーロッパクロマツが大木に育っている。

講演者のプロフィール

宮坂 省吾（みやさか せいご）

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター理事
元日本地質学会北海道支部長

略歴

長野県出身

1971年 北海道大学大学院修士課程終了

1987年 「日高山脈の上昇史」で理学博士

1992年 株式会社アイピー入社、以来地質コンサルタントとして北海道内で活動。

近年は札幌の川の変遷・豊平川の洪水などをテーマに調査・研究に取り組んでいる。

著書

「札幌の自然を歩く」(第3版)、「北海道自然探検 ジオサイト107の旅」(いずれも北海道大学出版会)

「揺れ動く大地 プレートと北海道」(北海道新聞社)

「札幌の地名がわかる本」(アリス社) (いずれも共著)